



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	(仮称)聖隷こども園富丘等複合施設新築工事	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	-----------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.8	/5	ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.7	/5	ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.6	/5	がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5	がんばろう

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------------	-----------------	-------------------

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)	3.8	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①外壁・屋根にウレタン吹付を採用 ②トップライト、ハイサイドライトを採用 ③ブラインド、庇を採用 ④主要内装仕上げ材の更新必要間隔 床:20年 内壁:20年 天井:30年 空調・給排水配管の更新必要間隔 給水:D 給湯:C 雑排水:B ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦外壁・屋根にウレタン吹付を採用 ⑨LED照明の採用 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水コマに加え、節水節電省資源装置付洗浄便座の採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)	3.7	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯建築基準法に定められた50%増の耐震性 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)	2.6	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑳壁長さ比率0.17 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱(⑲) ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)	2.7	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉒敷地の外周に植栽をすることにより景観に配慮した計画となっている ■敷地外環境対策 (⑳温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑳主風向に対する見付面積比を60%以下とした 	Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出 2 ㉒ まちなみ・景観への配慮 3 3.2 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 LR-3 2 2.2 ⑳ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE静岡 評価結果		重点項目				■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版				
(仮称)聖隷こども園富丘等複合施設新築工事		欄に数値またはコメントを				■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)				
スコアシート										
配慮項目	G	D	U	N	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境							0.40			3.1
1 音環境						1.8	0.15	-	-	1.8
1.1 騒音						1.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						2.2	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能					T2	5.0	0.31	-	-	
2 界壁遮音性能						1.0	0.34	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						1.0	0.18	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						1.0	0.18	-	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.9	0.35	-	-	2.9
2.1 室温制御						3.7	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.57	-	-	
2 外皮性能	G				外壁・屋根にウレタン吹付を採用	5.0	0.38	-	-	
3 ソーン別制御性						3.0	0.05	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.6	0.25	-	-	3.6
3.1 昼光利用						4.0	0.30	-	-	
1 昼光率					昼光率2.15	4.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備	G				トップライト、ハイサイドライトを採用	4.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						4.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	G				ブラインド、庇を採用	4.0	1.00	-	-	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	-	-	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						2.2	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.35	-	-	
2 自然換気性能						3.0	0.29	-	-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.35	-	-	
4.3 運用管理						5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御					全館禁煙	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.7
1 機能性						1.6	0.40	-	-	1.6
1.1 機能性・使いやすさ						1.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	
3 バリアフリー計画			U			1.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						1.0	0.44	-	-	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						1.0	0.56	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.8	0.30	-	-	3.8
2.1 耐震・免震						4.6	0.50	-	-	
1 耐震性				D	50%増の耐震性	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				D		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	G					3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	G					2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	G				床:20年 内装:20 天井:30年	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	G					3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	G				給水:D 給湯:C 雑排水:B	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	G					3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性						2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	D				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	D				2.0	0.20	-	-	
3	電気設備	D				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	D				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	D				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり						3.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		U			3.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		U		壁長さ比率0.17	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性						3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性					3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性					3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保					3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		G		N		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				N		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮						3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上					3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	G		U		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		G			BPI _m = 0.75	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		G				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化					[BEI][BEI _m] 0.71	3.9	0.50	-	-	3.9
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価						3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	G				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	G				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価						-	-	-	-	
4.1	モニタリング	G				-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	G				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護						3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	G			節水コマに加え、節水節電兼音装置付洗浄便座の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	G				3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	G				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						3.0	0.60	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減	G				2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	G				3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	G			-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	G			-	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	G				2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	G			GL工法(ウレタン吹付)を採用し、分別が比較的容易	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	G				3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	G				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	G				3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	G				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		G			ライフサイクルCO ₂ 排出率 83%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮						2.9	0.33	-	-	2.9
2.1	大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	G		N		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音					3.0	1.00	-	-	
2	振動					-	-	-	-	
3	悪臭					-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制					1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光対策ガイドラインの過半を満たしている、広告物照明な	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	

CASBEE静岡の重点項目の得点計算表

“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)			
	得点	スコア	重み
【1】エネルギー対策			
LR1 エネルギー	1.3	3.8	0.33
【2】資源・マテリアル対策			
LR2/1.1.1 節水	1.3	4.0	0.33
【3】敷地外環境対策			
LR2/1.1.1 節水	1.2	3.4	0.34
【3】敷地外環境対策	合計 = 3.4		
LR3/1. 地球温暖化への配慮	1.9	3.7	0.50
LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	1.5	3.0	0.50
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)			
	得点	スコア	重み
【1】サービス性能対策			
Q2/2.1 耐震・免震	2.3	4.6	0.50
Q2/2.4 信頼性	1.4	2.8	0.50
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)			
	得点	スコア	重み
【1】サービス性能対策			
Q2/2.1 耐震・免震	1.1	2.2	0.50
【2】室外環境(敷地内)対策			
Q3/3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.5	3.0	0.50
【1】サービス性能対策	合計 = 2.2		
Q2/1.1.3 バリアフリー計画	0.5	1.0	0.50
Q2/3.1 空間のゆとり	1.7	3.4	0.50
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)			
	得点	スコア	重み
【1】室外環境(敷地内)対策			
Q3/3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.2	2.3	0.50
【2】敷地外環境対策			
LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	1.5	3.0	0.50
【1】室外環境(敷地内)対策	合計 = 2.3		
Q3/1. 生物環境の保全と創出	0.3	1.0	0.33
Q3/2. まちなみ景観への配慮	1.0	3.0	0.33
Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0	3.0	0.34

注意事項

- 1) Microsoft Excel 2003 は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- 2) その他、記載されている会社名、製品名はすべて各社の登録商標または商標です。
- 3) 「CASBEE静岡 重点項目公表用ソフト」は、Microsoft Excel 2003 上で開発されたデータファイルです。これらのデータファイルは、著作権法上の保護を受けています。開発・著者、企画・発行者の許諾を得ず、無断で複製、転載（改造した場合も含む）することは禁止されております。
- 4) ただし、この評価ソフトを用いて、利用者の皆様が作成した入力および出力結果を使用する場合はこの限りではありません。その場合、この評価ソフトを利用した旨を明記してください。なお、パソコンの画面画像を使用する場合には、別途、Microsoft Corporationの許諾が必要になる場合がありますのでご注意ください。
- 5) この評価ソフトおよび操作マニュアルを運用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- 6) この評価ソフトの仕様および操作マニュアルの記載事項は、将来予告なしに変更することがあります。
- 7) この評価ソフトは Microsoft Excel 2003 で作成されたものであり、全てのコンピューター上での動作を保障するものではありません。

建築環境総合性能評価システム CASBEE静岡 重点項目公表用ソフト 2016年版

Microsoft Excel 2003版

CASBEE静岡 企画・発行 静岡県 暮らし・環境部建築住宅局建築安全推進課 建築確認検査室

ソフトの内容等に関する問い合わせ

本ソフトの内容に関するご質問は、下記連絡先までE-mailにてお送りください。
なお、回答までに日数を要する場合がありますので、予めご了承ください。
また、Microsoft Windows、Microsoft Excel 2003 等の操作に関しては、それぞれの操作マニュアルをご覧ください。

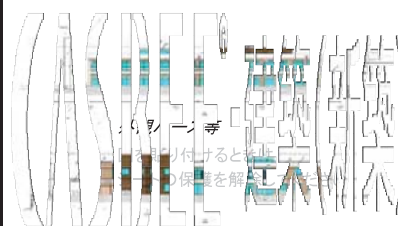
静岡県 暮らし・環境部建築住宅局建築安全推進課 建築確認検査室
〒420-8601
静岡県静岡市葵区追手町9番6号
TEL 054-221-3075

Copyright ©2017 静岡県

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)聖隷こども園富丘等複合施設新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県磐田市富丘677番1	構造	RC造
用途地域	市街化区域、法第22条区域	平均居住人員	191 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,564 時間/年(想定値)
建物用途	学校、病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年6月6日
敷地面積	4,701 m ²	作成者	株式会社 公共設計 関戸 敏訓
建築面積	1,625 m ²	確認日	
延床面積	2,746 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 82%
③上記+②以外の 82%
④上記+ 82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>昼光利用設備を積極的採用することにより、室内を明るく演出し、ブラインドや庇などの設置により必要に応じてグレアの調整もでき、快適な室内環境の演出を図っている。</p> <p>また、高い耐震性により安全な保育園での生活を送れる設計となっている。</p> <p>※CASBEE静岡2016年版による評価結果</p>		特になし
<p>Q1 室内環境</p> <p>高い外皮性能やF☆☆☆☆を全面的に採用することにより室内環境の向上を図っている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>高い耐震性を有し、内装仕上げ材や給排水管に長い更新間隔にすることにより維持管理へ配慮した計画となっている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地の外周に植栽をすることにより景観に配慮した計画となっている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>適した断熱材の厚みにすることにより外皮の熱負荷抑制を図り、LED照明の採用などにより省エネルギー化を図っている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>自動水栓、節水型便器の採用により水資源保護に貢献している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>周辺環境への影響を考慮し、照明設備設置の是非、設定照度を設定している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される